

図書館とともだち

図書館とともだち・鎌倉 おしらせ No. 233

2025・9・24

やれはす

破蓮の動くを見ても

せりふかな

ー初代・中村吉右衛門ー

10月近くになって

“小さい秋”が

やっと見えてきたかな

という感じの鎌倉

鶴岡八幡宮の蓮も破蓮となり

夏の気配を脱ぎつつあります

遅めにやってきた爽やかな季節を

これから楽しまなくては！

○ CONTENTS ○

PAGE

☆ 小坂小の学校図書館から	…1
☆ 旧前田邸解体と「日本遺産」除外の危機	…3
☆ 「青山学院ミュージアム」「駒澤大学禅文化歴史博物館」をたずねて	…4
☆ 湘南邸園文化祭 20 周年特別企画 第1回「鎌倉の庭から辿る邸園文化」報告	…5
☆ 松坡先生をめぐる人々26 横山信徴 袴田潤一	…6
☆ 松坡文庫研究会講演会のご案内／「かまくら春秋」関連記事の紹介	…7
☆ 第3回ファンタスティック☆ライブラリー114 実行委員会報告	
☆ 映画と本と図書館と 49 田邊恵美 / 銀幕情報	…8
☆ ニューヨークのモルガン図書館・博物館を訪ねて	…9
☆ ひこうせん夏の遠足報告	…10
☆ 西鎌倉子育てサロン Palette おはなし会報告	
☆ ボラ協報告／協働推進室は仕切り直し／活動日誌	…11
☆ 事務局から	…12



昨年9月18日に「学校図書館サポーターズ倶楽部」が立ち上がって1年が経ちました。メンバーは折々に集まって情報交換したり、それぞれ図書館関連の大会に参加するなど地道な活動を続けています。

小坂小の学校図書館から

子どもたちは学校図書館が大好きです。たくさん本があり、自分のペースで本を読み、そして教室とはちょっと違うゆったり感があるからでしょうか。休み時間にはいつもたくさん子どもがやってきます。本の貸出・返却、本やマンガを読む、ちょっとしたおしゃべり、涼しいところでひと休み、と目的は様々です。休み時間のたびにやってくる子もいます。

このような「読書センター」としての機能に加え、学校図書館には「学習・情報センター」という役割もあります。総合的な学習の時間、各教科の調べ学習などを通して、情報活用能力を育てる場でもあります。学校司書は先生方と連携し、授業計画をもとに、より良い資料・蔵書を準備するように心がけています。

現在市内の学校司書は小学校には週3日(7時間×12日/月)、中学校には月に6日(5時間×6日/月)配置されています。小坂小学校では司書のいない週2日は無人であり、休み時間のみ図書委員会の児童が貸出返却業務をしています。学校事情によっては、司書のいない日には閉館しているところもあります。



小坂小学校学校図書館

また先生方にとっては、授業準備は毎日のことです。より良い授業をするために教材研究をする中で、この日のこの時間に図書館の資料が欲しいと思いついても、学校司書の出勤日でなければタイミングよく授業を進めることができないことが多々あります。一方中学校では、いつ学校司書が出勤しているのかも十分に把握されておらず、生徒から「今日、司書の先生いたんだね。次はいつ来るの。」と聞かれるような状態です。また月に30時間では、購入図書を受け入れ作業と書架の整備に終わり、持ち帰りで仕事をしている方も多のが現状です。先生方と十分に情報共有することができず、授業支援まで手が回りません。

学校図書館は子どもたちを育み、学習を支え、先生方を支える場です。「読書センター」「学習・情報センター」として活用されるためにも、小中学校共に毎日人がいる学校図書館になることが必要だと考えます。

先日、2年生におはなし会をしている最中に、図書館に小鳥が迷い込んできました。ハプニングを楽しみながら、技能員さんと教頭先生を呼んできて網で捕まえてもらいました。「なんていう鳥？」子どもたちの疑問は尽きません。「写真を撮っておこう」と、タブレットで写真を撮ってから小鳥を逃がしました。鳥の図鑑で調べるとシジュウカラの雌であることがわかりました。そして図鑑をもって意気揚々と協力してくれた先生方のところに報告に行きました。小さな出来事ですが子どもたちのワクワクは様々なところにあります。「問い」を持ち、それを解決していくことが、学ぶ喜びであり、「主体的・多面的で深い学び」につながります。

今年は、学校図書館に新聞費として追加の予算がありました。大変ありがたいことです。かねてより、学習指導要領には、図書館に新聞を配置することが明記されていたのですが、これまでは、学校の消耗品費で購入していました。そのため、予算を捻出できない学校がたくさんありました。今回、新聞費として予算が付いたおかげで、鎌倉市の全校の図書館で新聞を配置することができました。本校では、児童用2誌を図書館の入り口に配置し、通りかかる子どもたちが目を通したり、学習に役立ちそうな記事を学校司書がスクラップし先生に提示したり、時にはタイムリーな記事を掲示物にしたりして活用しています。

この夏休み、先生方と職員の方が壁紙張りとしり棚のペンキ塗りをしてくださいました。夏休みが明けると、子どもたちは「あ、きれいになってる！」「この色かわいいね！」とすぐに気付き、嬉しそうにしていました。図書館のぬくもりは人の力で作られていくのだと改めて感じています。

これからも先生方と連携をして、学校図書館がより楽しく、そして学びを支える場となることを目指して、日々模索していきたいと思えます。



(鎌倉市立小坂小学校 学校司書
元市内小学校教諭 谷原菜摘)



旧前田邸解体と「日本遺産」除外の危機



15年前市に寄贈された旧前田邸 8月3日見学会

前号に引き続き旧前田邸解体をめぐる動きについてお知らせします。

「旧前田邸を保存活用する会」による説明会実施の要望を受けて市は見学会を兼ねるかたちでの説明会を8月3日に実施しました（7月30日にも予定していましたが、緊急津波警報が発せられたため中止し9月30日に延期されています）。この時の参加者は午前と午後の2回で併せて450名近くの大規模なものになりました。それだけ市民の関心は高く市の動きに注目しているということだと思います。

この日の参加者が多かったため見学者を二グループに分け、片方のグループは文学館の庭園を先に見学し次に邸宅を見学する、もう一つは逆の順番で見学するという形になり全員の見学が終わったのちに説明会が行われました。邸宅と庭園では見学にかかる時間が違うため邸宅を先に見学したグループは文学館の庭園を見学したあとそのまま帰る人が多く、あとから邸宅を見学した人も説明会が猛暑の屋外で行われたこともあり、説明会の参加者は少なかったです。それでも参加者からは多くの疑問や意見が出されましたが、担当課職員の説明はこれまでの市の見解を繰り返すだけで、これでは説明会になっていないと感じました。当日、配布された資料も文学館の紹介が主で旧前田邸解体理由についての記述は簡単なものでした。こうした屋外での立ち話という形ではなく会場を別に確保して配布資料も含め丁寧な説明をすべきと考えます。

この問題にはメディアも注目し、この建物の由来や寄贈を受けた市のこれまでの対応、そして市民の動きなどが報道されていますが、これに関係する注目すべき報道があったので紹介します。8月22日付朝日新聞の「日本遺産『いざ、鎌倉』除外の危機」という記事です。文化庁が認定した日本遺産リストから鎌倉が外される危機に立たされているというのです。2022年の審査で「遺産を活用した地域活性化の具体策の乏しさや周知不足を指摘され、3年後の再審査を受ける条件で認定継続とされた」と記事に書かれています。これを受けて松尾市長は「鎌倉の伝統文化を理解していただくことに努力しないといけない」と定例会見で述べたそうですが、別荘文化という鎌倉特有の伝統文化の継承という点で旧前田邸の保存活用も市が「努力しないといけない」課題ではないでしょうか。

旧前田邸の寄贈を受けて15年間、活用方法については検討されたと推測しますが、結果として放置したこととなり、そのような市の姿勢が日本遺産からの除外の危機にもつながったと言わざるをえません。もっと早く市民に知らせ、その活用方法について意見聴取をすべきだったと思います。市は土砂災害の危険に対処できない、建物内部に段差があり公的活用は無理ということを解体の主な理由にしていますが、対処の仕方があると専門家も含め様々な人から意見を聞いています。この建物の活用の仕方や管理・運用の担い手をどうするかということも併せて広く市民の意見に耳を傾け、協力を得られるような努力が市に求められていると思います。

この問題は「ととも」の直接の課題ではありませんが、旧鎌倉図書館の保存・活用に取り組んだ当会としては鎌倉の歴史文化遺産の継承に強い関心があり、今後も注目していきたいと考えています。なお、冒頭でふれたように9月30日にも見学説明会がありますので関心があり 未見の方は是非ご参加ください。

(和田)

☆関連情報は <https://lovely-mayflower-fa2.notion.site/226cd0666ede80a8b302d268d72d8da9>

七月、間島弟彦・間島愛子夫妻 旌徳の会では、間島弟彦所縁の青山学院ミュージアム、そして駒澤大学禅文化歴史博物館を訪ねる催しを企画しました。文化財建造物の歴史と価値再発見の見学会でした。

「青山学院ミュージアム」「駒澤大学禅文化歴史博物館」をたずねて

2025年7月11日、渋谷の「青山学院ミュージアム」と駒沢の「駒澤大学禅文化歴史博物館」の見学会を実施しました。

この2つの施設は図書館としてスタートし、現在は装いを新たに別の用途で歴史を刻んでいます。

鎌倉の「旧図書館」も同じ歩みで現在に至っています。また、3施設とも「国登録有形文化財(建造物)」の登録を受けています。

「青山学院ミュージアム」は、1929(昭和4)年に間島弟彦の遺志を継いだ愛子夫人の寄付により建設された図書館が、1977年の新図書館の建設に伴い、「間島記念館」資料センターとなっていました。2025(令和7)年「青山学院ミュージアム」に生まれかわりました。

ミュージアムは、入口の両側に「間島記念室」と青山学院を支えてきた「サーバント・リーダールーム」を配置し、創立以来の歴史を伝える映像の上映(ミュージアムシアター)、近世・近代日本のキリスト教史、青山学院の歴史等の展示と充実した内容となっています。

なお、「間島記念館」は2008(平成20)年に「国登録有形文化財(建造物)」の登録を受けています。



青山学院ミュージアム

「駒澤大学禅文化歴史博物館」は1928(昭和3)年に堂々とした風格を備えた鉄骨鉄筋コンクリート造り、スクラッチタイル貼りの図書館(二代目)として建設されました。

1973(昭和48)年に三代目の図書館が完成すると、宗教行事も行う癒しの場「耕雲館」としてその役割を担うことになりました。「耕雲館」の名は、禅語「耕雲種月(雲を耕し、月に種を植えるように、苦勞をいとわず、着実に努力するさま)」から採られました。

なお、この博物館は2025(令和7)年に「国登録有形文化財(建造物)」の登録を受けました。



駒澤大学禅文化歴史博物館

【感想】鎌倉の旧図書館と同様な歩みで、文化財として保存されている建造物が、身近に3つもあり、見学することができ、保存する大切さを学んだ一日でした。図書館として生まれ、カタチを変えて歴史を刻んでいる文化財はまだまだあると思います。検索し、見学の企画を考えたいと思っています。

今回の参加は青木、阿部、今泉、鈴木、平塚、古矢、和田の7名でした。

(平塚 優)



《湘南邸園文化祭20周年特別企画》第1回「鎌倉の庭から迎える邸園文化」報告

9月6日（土） 於：建長寺／鎌倉女子大学山ノ内学舎



方丈奥庭園を眺めながら玉林美男さんのお話を伺う

湘南邸園文化祭20周年特別企画としてリレー講座が9月6日から12月20日までの期間に8回開催されます。

第1回「鎌倉の庭から迎える邸園文化」が9月6日に行われ、参加しました。参加者は37名でした。

午後1時から建長寺大庫裡2階「応真閣」にて鎌倉考古学研究所の玉林美男氏の講義を受講しました。受講後、建長寺庭園と鎌倉女子大学山ノ内学舎の庭園を巡りました。

講義では鎌倉における庭園史として

(1) 永福寺庭園 (2) 北条時頼による建長寺の創建 (3) 近代別荘における庭園 について話されました。

永福寺庭園は源頼朝が建久2年(1191年)2月15日(如月の満月、釈迦涅槃の日)に寺を建立する土地を自ら選定し、建久3年(1192年)8月24日に初めて池を掘り出しました。二階堂川の流路を東側山裾に変更して、西側の建物と山の間の旧流路を池とする庭園が造られました。

宇治平等院に代表される平安期の浄土式庭園は、池の西側対岸に阿弥陀仏を本尊とする鳳凰堂を配置して極楽浄土への往生を祈る形式ですが、永福寺の庭園は中央に釈迦を祀る二階堂とその左右に薬師堂、阿弥陀堂を設ける三尊形式という法華経信仰による釈迦の浄土を示す形式で、その後の鎌倉東国の浄土庭園の典型となりました。池に面して釣殿があり、釣殿周辺の水際の護岸は荒磯風の景色となっています。釈迦三尊、薬師、阿弥陀の三仏を祀る法隆寺が永福寺の原点ではないかと伺いました。

建長寺は北条時頼創建、中国僧蘭溪道隆開山の我が国最初の禅宗道場で、中国から直輸入された伽藍庭園と独自に考案された方丈庭園という当時の新しい二つの庭園が現存しています。総門・三門・仏殿・法堂・方丈が一直線に並ぶ伽藍配置は南宋の径山万寿禅寺を模して鎌倉の谷戸地形にはめ込んだもので、独特の景観を示しています。三門から仏殿に至る7本(当初は10本)の柏槇のヴィスタを強調する前栽列樹が創建時の姿を残しています。

方丈庭園は谷戸の地形を削り、谷戸の雨水処理のための「^{さんべきち}蘸碧池」を中心に斜面に石組みや植栽を配し、山頂を景観に取り入れるなど鎌倉独特の庭園様式を見せています。武家館等の庭園にも取り入れられて日本庭園の重要な源流の一つとなりました。

ここに自然の美しさと建築等の人工の美しさが融合した美が生まれました。講座を終えて、庭園を巡ります。方丈庭園を眺めながら、お話がありました。

そのあと鎌倉女子大学山ノ内学舎「尚半亭」に向かいました。「尚半亭」は東京国立博物館に490点の中国古陶器を寄贈した古美術商廣田不孤斎(松繁)の昭和30年築の住まいでした。数寄屋造りの母屋(尚半亭)茶室(松喜庵)展示館(孤陶洞)の3棟と和風庭園からなっていて、現在は学園の教育の場として生かされています。織部式の茶室、田中泰阿弥作庭の茶庭は鎌倉の岩盤と地形を利用した流れが素晴らしく思いました。鎌倉の谷戸地形を生かした近代庭園が実現しています。躰り口、待合いの周りの石の置き方も特徴的だそうです。母屋の玄関の床はタイルのように見えたが、モルタルに鰻で切り込みを入れ造られたもので、凝った造りになっています。

庭園を眺めていると四季折々の美しさに心が癒されます。いつもは、なんとなく気持ちよくその空間にひたっていましたが、今回の講座に参加させて頂き、庭園の奥深さを感じる一日になりました。(古矢)

松坡先生をめぐる人々 26 横山信徴

松坡文庫研究会 代表 袴田潤一



横山信徴

(長江銈太郎 著『東京名古屋現代人物誌』(柳城書院 1916))

横山^{のぶあき}信徴(1859~?)は尾張名古屋の人。藩校明倫堂に学び、小学校で教鞭を執った後、上京して苦学して法律を学びました。明治16(1883)年より神奈川県吏として衛生事務に就き、明治32(1899)年に長崎海港検疫所所長、同37(1904)年に神奈川県防疫事務官となり、大

正3(1914)年まで地方衛生、港湾衛生の仕事に従事したようです。『東京名古屋現代人物誌』(長江^{けいたろう}銈太郎 柳城書院 1916)には「君資性温厚にして勤勉、且清廉潔白にして親切を以て人に臨む」とその為人が記されています。実業界に転じたのは原富太郎(三溪)・若尾幾造の懇請によるものです。政財界で活躍した平沼専蔵が臨終に当たり、平沼家の後事一切を託せられた原と若尾の協議の結果、白羽の矢が立ったのが横山信徴でした。信徴は官界を退いて平沼家の人々を助けることになりました。しかし、実業界での信徴の事蹟に関する記録は未詳です。

名古屋時代に藩儒の佐藤牧山(1801~1891)に就いて漢籍詩文を学び、職務の余暇を得て書道も学んだといひます。鎌倉雪ノ下に住まいがあり、松坡先生が主宰する松社に加わりました。「松窗」の号はひょっとしたら松坡先生が撰定したものかも知れませんが。月例会への参加の記録、松窗が詠んだ漢詩(『漢詩春秋』所載)、松坡先生が松窗の詩に次韻した作、松窗の80歳を祝う松坡先生の詩などがあります。

『漢詩春秋』(第14巻第10号 1930.10.1)に掲載されている松窗の「早秋偶感」と題された詩を紹介します。「栖遲塵不到。養病對江山。月下荃吟壁。風前濤拍灣。琴書忘白髮。藥酒得朱顏。只愧難成志。故郷何日還。」 難しい詩ではありません。栖遲はゆったりと心静かに暮らすこと、^{きょう}蛭はコオロギ。最後の二句「ただ愧じいるのは、志成り難く、いつの日か故郷に帰ることができようか」は謙遜とは云え、心にしみるものです。

ところで、昭和8(1933)年3月の松社の雅会が「謙益軒」^{けんえきけん}で開催され、松窗による報告が『漢詩春秋』(第17巻第4号 1933.4.1)に掲載されています。「三月五日松社の例会を金澤町長濱の謙益軒^{かなざわまち}に開きしが途次杉田に立寄り梅花を一覽せるより時已に亭午に近く」とあります。「謙益軒」は料理店などかと考えてさんざん探しましたが、埒が明きませんでした。はっと思ったのは、横山信徴、防疫事務官、長浜検疫所、「検疫ケンエキ」、「謙益ケンエキ」でした。長浜検疫所内には迎賓館があり、松社の雅会はそこで行われたのです。会場の利用については横山信徴の斡旋があつたに違いありません。「検疫所雅会」ではみやびな会にはそぐわず、『中庸』など中国の古典で古くから使われ、謙虚の徳を表す「謙益」の語を宛てたのでしょう。検疫所の迎賓館では与謝野寛鉄幹・晶子夫妻らが参加する短歌会が開かれたり、高浜虚子や佐藤惣之助などの文人や後藤新平などの政治家も訪れているそうです。

松坡先生が松窗80歳を祝って詠じた詩に「齡差三歲宛昆弟(齡の差三歲、宛ら昆弟)」、「君詔身心^{ほこ}逾老健。吾慚耳目減聰明。(君、心身を詔り、逾々老健。吾れは耳目の聰明を減じるを慚ず。)」とあり、二人の親しい間柄が窺われます。

第11回講演会「唐津の松坡・田辺新之助」

田辺新之助は少年期の約10年を唐津ですごした後上京しましたが、終生「唐津人」を自称するなど、松坡先生にとり故郷唐津は特別の土地でした。本年7月、調査のために唐津を訪ねた講師お二人の報告もあわせてお楽しみいただければ幸いです。

講師 片山健介(松坡文庫研究会 逗子開成中学校・高等学校)

袴田潤一(松坡文庫研究会代表)

日時 2025年10月12日(日) 14時~16時

会場 鎌倉市中央図書館 3階 多目的室 定員 30名(参加無料・申し込み順)

申込 ・電子メール chulib@city.kamakura.kanagawa.jp

件名「松坡文庫研究会講演会申込み」氏名・フリガナ・電話番号を記入

・電話 0467(25)2611(鎌倉市中央図書館)

「かまくら春秋」9月(No.665)号にご注目ください！

当会会報に毎号「松坡先生をめぐる人々」を寄稿下さっている松坡文庫研究会代表の袴田潤一先生と、鎌倉に生まれ育った玉生弘昌氏のお二人が一月おきに執筆される新連載「鎌倉人物再考」が「かまくら春秋」にて先月より始まりました。今月号は、袴田先生による「田辺新之助と清雅な町鎌倉」が掲載されています。また、当会も強い関心を寄せている旧前田別邸の解体問題に関して語り合う市民の座談会「見える文化、見えない文化」も掲載されています。ぜひ多くの方に読んでいただきたい特集です。

第3回ファンタスティック☆ライブラリー・114実行委員会報告

9月18日(木) 14時~15時半 於：鎌倉市中央図書館多目的室

第3回の実行委員会が図書館員6名、2団体5名の参加で行われました。F☆L開催前、最後の実行委員会でしたので、タイムスケジュールと各団体の展示場所、使用する備品などの数の確認を中心に話し合いました。

◎広報かまくらは、令和7年11月号に掲載予定、鎌倉萌は、令和7年11・12月号に掲載予定。

◎F☆L終了後の巡回展示は、年明けから年度末まで順次行う。

◎準備は、前日の13時~17時に行える。撤収は、7日の16時~17時。

◎開催日程は、12月6日・7日の10時~16時。各日とも開館時間の9時半から、準備可能。

◎1階の展示コーナーに各団体のパネルを少しずつ展示し、3階や階段展示、おはなしコーナーに誘導できるようにしたいので、各団体に持ち帰って検討する。

◎各団体の内容について

- ・かまくら女性史の会 【展示】「鎌倉の保育5」【講演会】講師：橋本志津恵氏
- ・松坡文庫研究会 【展示】「間島弟彦と松坡先生」【ギャラリートーク】講師：袴田潤一氏
- ・TOTOMO 【展示】活動紹介
- ・おはなしひこうせん 【展示】「My Favorite Things」パネルと絵本【おはなし会】【ワークショップ】
【人形劇】「キツネのいたずら」(出演：アマチュア人形劇団「いちばん星」)
- ・間島弟彦・間島愛子夫妻 旌徳の会
【展示】「間島弟彦・間島愛子夫妻の寄贈本とゆかりの人々」PART3
- ・図書館 【講演会】「たたら製鉄」について 講師：木浪信之氏
【図書館見学会】【鎌倉女子大の参加】

次回の実行委員会は12月18日(木) 14時~15時半、中央図書館多目的室にて。

TOTOMOからは、阿部、黒瀬、斉木、杉崎が参加しました。

(杉崎)



第49回

映画と本と図書館と

『丘の上の本屋さん』(原題: *Il diritto alla felicità*)

(2021年・イタリア制作/監督: クラウディオ・ロッシ・マッシミ)

ミモザフィルムズ配給(日本公開 2023年)

「かまくら銀幕上映会」ナビゲーター 田邊恵美

『残りの人生で、読む本、見る映画の指針を持て。』

自称“両国高校のゲーリー・クーパー”我が父が、近頃とみに視力が落ちてきた。もう本も読めないテレビ画面も見られない事を嘆いている。愛用のドライビンググローブもう使えない。そうか。私は漫然と本や映画を決めているが、ある日突然そんな時が来るかもしれん。いまひとたび、本当は読みたかった本、見たかった映画を確認しよう。

この作品のロケーションは大変美しい場所だが、プロットはなんだかとてもシンプル。いつか舞台化されてもいいかなと思う。そして本屋の主が本の続きを読み始める時には、手巻きオルゴールのねじを巻く。私はたまに集中して読みものをする時にお香を焚くが、誰も知らないメロディのオルゴールも読書の導入には最適かもしれない。どちらも気がつくと既に終わっているのも良いところだ。

舞台となった“イタリアで最も美しい村”のひとつ、チヴィテッラ・デル・トロントに図書館があるかどうかはちょっと不明でしたが、この丘の上の古本屋さんは間違いなく“村の図書館”のようでもあり、店主は本探しのレファレンス役も務めれば、いつか医者になりたいという少年に、一冊また一冊と、お勧め本を貸し与えていく。まさしく『村の司書』！

医師という仕事は患部だけでなく人間そのものを診る力が深い方が、良い医者になる。カリキュラムに追われるようになる前に人文系の学びを得る素晴らしい機会を持った少年はさて、どのようなドクターになったのだろう？いつか誰かが、この映画の続編を作ってくれないかなあ…。

かまくら銀幕上映会のお知らせ(主催: ドリーム・アーツ(03-5969-8081)) 於: 鎌倉芸術館小ホール

9/26 (金) 『エミリア・ペレス』

10/14 (火) 『花まんま』

10/28 (火) 『教皇選挙』

11/13 (木) 『HERE 時を越えて』

◎前売り券・シニア 1000 円(当日券: 1300 円) ◎上映時間①11:00~ ②14:00~

☆上映スケジュールの確認は、鎌倉芸術館(0467-48-5500)へ

☆受付で「田邊さんから聞いた」とおっしゃっていただければ、前売り料金でご覧いただけます。

☆Facebook、X、Instagram でも情報発信しています。『かまくら銀幕上映会』で検索してフォローよろしくお願いします。



令和7年度図書館協議会が8月27日に行われました。TOTOMO はできる限り毎回傍聴をしています。今回はお知らせ(8月17日)から協議会までの期間が短く、しかも図書館HPでのお知らせのみでしたので開催を知らないまま当日が過ぎてしまいました。

図書館協議会は中央図書館長の諮問機関であり、図書館の現状や今後の方向性を示す大切なものです。図書館について知りたいと思っている市民誰もが傍聴参加しやすいよう、できるだけ早い段階で、広報への掲載、図書館内の掲示なども含め、広く告知していただければと思います。

ニューヨークのモルガン図書館・博物館を訪ねて the Personal Librarian: Belle da Costa Greene

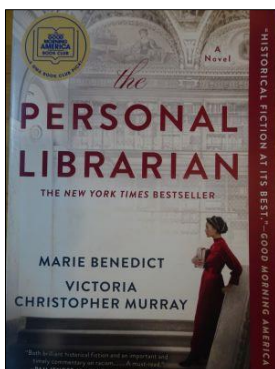
232号では、公共図書館を話題にしましたが、NYの歴史のある私設図書館・Morgan Library&Museumを再訪しました。数年前に重厚な建物を訪ね、館内に入った時、その美しさ、豪華さに息をのみました。金網で守られた書庫の美しい古い本、また展示されているアーカイブは、ダビンチの自筆スケッチ、楽譜に書き込まれたベートーヴェンの字、文学者の手紙、世界的な遺産であるグーテンベルグの聖書本等に圧倒されました。しかし、2度目に訪れた時は、どうもアメリカのお金持ちが集めた図書館という以上の印象しかありませんでした。



The Morgan Library&Museum

今春、アメリカに住む友人が一冊の本『The Personal Librarian』を紹介してくれました。「今NYで話題の本で、Morgan Library&Museumで本の主人公Personal Librarianの女性に関する展示をしているのでぜひ見てくださいと薦められました。コレクションはお金ばかりではない、収集するライブラリアンやキュレーターがいなければ、どのような女性なのだろうかと急ぎ、久しぶりにマンハッタンにある図書館を訪ねました。吹き抜けロビーにモルガンカフェも増設、列をなす入場者でした。

Morgan Library&Museumは、金融家のJ.Piamont Morgan(1837-1913)が1903年に創立し、1905年、一人の女性の図書館員を雇用しました。Belle da Costa Greene(ベル・ダ・コスタ・グリーン)でした(1879-1950)。Morganの死後も館長にもなり、黒人であることを隠して白人として40年にわたり図書館の優れた稀本や原稿のコレクション構築に力を注ぎました。



『The Personal Librarian』
2021年パークレイブックス刊

まず本『The Personal Librarian』は、二人の女性ノンフィクション作家、伝記作家(Marie Benedict&Victoria Christopher Murray)により、まだ黒人差別や女性差別があったアメリカの歴史的な背景と Belle の自己のアイデンティティの苦悩、NYのアート界、芸術への深い理解、世界の希少なアーカイブコレクションへの専門的な知識獲得への物語を描いています。私は残念ながらまだまだ英文の解釈不足で訳本の出版が待たれます。展示会は、落ち着いた紅色と深い緑を背景として、Belle のポートレートや写真と共に、彼女が蒐集した多くのコレクションが展示され、吹き抜けロビーにあるモルガンカフェでは音楽の生演奏を聴きながらお茶ができる。誰も経験しなかった Librarian 人生を物語っていました。キュレーターの展示の構成、Belle のキャリアへの尊敬、資料選択、色調のセンスは素晴らしいものでした。展示会については、Library の公式ページから展示会の概要をぜひご覧ください。

【公式ページ】

[The Morgan Library & Museum, New York, founded by Pierpont Morgan](https://www.themorgan.org/)

Exhibitions ⇒ Past ⇒ Belle da Costa Greene: A Library Legacy

<https://www.themorgan.org/exhibitions/belle-da-costa-greene>

写真 <https://www.themorgan.org/belle-greene/portraits>

Marie Benedict;VictoriaChristopher Murray 『the Personal Librarian』 Berkley, NY 2022

(青木玲子)

ひこうせん夏の遠足報告

8月21日（木）リト@葉っぱ切り絵展 in 横浜みなとみらい・オレンジ&レモン文庫



リト@葉っぱ切り絵展の入り口で

猛暑の中、今年もひこうせん夏の遠足を実施しました。参加者10名は、桜木町駅に集合し、まずは「リト@葉っぱ切り絵展 in 横浜みなとみらい」へ。リトさんは、神奈川県出身の葉っぱ切り絵作家。ADHDによる偏った集中力やこだわりを前向きに生かすために、2020年から独学で制作をスタート。公園などで拾った葉っぱを、動物たちを中心としたほのぼのとした切り絵作品にしています。その繊細であたたかな作品には、見る人を引き付ける力があると思いました。

その後昼食用のお弁当を買って、オレンジ&レモン文庫へ。今年は戦後80年ということもあり、文庫を主宰されている荒井さんの思いがより一層こもった「戦争と平和の本」の展示と説明でした。また、「被爆体験証言者と高校生との共同制作による原爆の絵」（複製画）の展示もありました。現代の高校生たちが経験のない出来事を絵にするのに、どのくらいたくさんの証言を聞き、考えたのでしょうか。どの作品も力強く訴えてくるものがありました。ウクライナやパレスチナでの戦争がなかなか終わらない今、戦争や平和について本を読み、考え続けていくことはとても大切だと改めて思いました。（杉崎）

西鎌倉子育てサロン Palette おはなし会報告

9月4日（木）10:15~11:30 於：茶風

台風の接近が危ぶまれる中、子育てサロンでおはなし会をしました。幸い雨はところによってパラつく程度で、4組9名の参加でした。

今はどこの子育てサロンも来てくれるのは赤ちゃんが殆どで、絵本よりお互いの存在が気になったり、ハイハイで動き回ったりと忙しかったけれど、ママたちもここにこしてくれて楽しい時間



紙芝居『よんでよんで』

でした。もうすぐ3歳になるお兄ちゃんがちょっとの間ママのお膝を独占できて嬉しそうにしていた、こちらにも幸せな気持ちになりました。ひこうせんからは、石井・石原・福田・黒瀬が参加しました。（黒瀬）

プログラム

歌「はじまるよ」
絵本『とんとんももんちゃん』
紙芝居『かわるよ かわるよ』
手遊び「げんこつやまのたぬきさん」
絵本『げんこつやまのたぬきさん』
絵本『パンダおやこたいそう』
絵本『おつきさまこんばんは』
絵本『あなたがとってもかわいい』
紙芝居『よんでよんで』
わらべうた「さよならあんころもち」

ボランティア連絡協議会報告

8月21日(木)、9月11日(木) 於：福祉センター

8月21日(木)午前中に委員会を行いました。猛暑の中でしたが、多くのグループ代表が集まりました。7月に実施した夏休み子ども福祉体験の報告や10月1日から始まる共同募金への協力をお願いなどがありました。次回委員会は10月16日(木)です。事務連絡のあとにボラ協マルシェを行います。素敵なクリスマスグッズやお馴染みの「はまなみ」さんのパンなどが並びます。グループ代表以外の方も自由に参加できますので、ぜひお立ち寄りください。

9月11日(木)の役員会では、主に11月23日開催予定の福祉まつりバザーについて話し合いました。市民に寄付物品を募るのですが、扱えるものと扱えないものを考えたり必要な備品を確認しました。皆様には社協日より11月号と広報かまくら11月号でお知らせします。

その他、社協職員からは支援を続けている能登半島地震被災地の現状報告や、2月に予定しているミニ研修に関する提案などがありました。一方、各グループから街頭募金協力者のお返事が届き始めたため、ボランティア活動室3に貼った一覧表に書き込みました。(黒瀬)

協働推進室は仕切り直し

9月12日(金)17:30～ 於：NPOセンター鎌倉

12日に開かれた第6回会議では、今後の協働推進室のあり方について理事会の考えが説明され、意見交換をしました。同推進室はこの4月に発足したのですが、9月30日をもって現在のメンバーは辞任し、規約に沿って新たに選定したメンバー25名ほどで再構成する予定です。市民活動センター運営会議は4月から第6期指定管理業務を行っていますが、その事業計画では「協働」がこれまでの枠を超えた重要課題となっており、現在の推進室機能では限界があることから、より幅広く関連諸団体からメンバーを選任するということです。

その他、8月23日(土)に行われた「つながる鎌倉エール事業地域活性化コース」プレゼンテーションの報告や市役所各課から寄せられた課題についての検討、県の「かながわNPO伴走応援プログラム」の説明などの議題がありました。(黒瀬)

TOTOMO活動日誌 (7/31～9/24)

8/6	間島弟彦・間島愛子夫妻 旌徳の会	9/4	Unileaf お手伝い
8/7	Unileaf お手伝い	9/4	子育てサロン Palette おはなし会
8/13	協働推進室第5回会議出席	9/6	湘南邸園文化祭スタッフ参加
8/14	ボランティア連絡協議会役員会出席	9/11	ボランティア連絡協議会役員会出席
8/19・20	学校図書館サポーターズ倶楽部	9/12	協働推進室第6回会議出席
8/21	おはなしひこうせん夏の遠足	9/18	おはなしひこうせん勉強会
8/21	ボランティア連絡協議会委員会出席	9/18	F☆L実行委員会出席
8/23・24	第64回社会教育研究全国集会参加		
8/28	鎌倉から「世界」を読む会		ロビー活動 随時
9/3	間島弟彦・間島愛子夫妻 旌徳の会臨時例会		定例会5回(8/6, 9/3, 10, 17, 24)



TOTOMO COMING NEXT! 事務局からのお知らせ

涼しさや夜長とともに読書の秋がやってきます。図書館や本屋さんへ行って話題の本や読んでみたかった本を手にとってみませんか。

鎌倉から『世界』を読む会

毎月8日に発売される『世界』を各自読んで、月末にNPOセンター鎌倉で読書会を開催します。

第8回(10月号): 9月25日(木) 14時~16時

第9回(11月号): 10月30日(木) 14時~16時

お問い合わせは、東(TEL 0467-46-5548)まで。

おはなしひろくせん勉強会

日 時: 10月16日(木) 10時~12時 場 所: 福祉センター

テーマ: 秋の味覚 実りの季節を楽しめる、絵本や紙芝居をご紹介します。

※11月の勉強会は、野の花ホールでF☆Lの打ち合わせと折り紙講習会を行う予定です。

お問い合わせは、黒瀬(TEL/FAX 0467-22-8545)まで。

読書会

日 時: 9月26日(金) 11時~12時半 場 所: NPOセンター鎌倉

テーマ本: 瀬尾まいこ著『夜明けのすべて』(文春文庫)、柚木麻子著『BUTTER』(新潮文庫)

お問い合わせは、杉崎(TEL/FAX 0467-41-4956)まで。

間島弟彦・間島愛子夫妻 旌徳の会

日 時: 10月1日(水) 13時半~16時半 場 所: NPOセンター鎌倉

お問い合わせは、鈴木(TEL 090-4728-5242)まで。

ファンタスティック☆ライブラリー・114

日 時: 12月6日(土)・7日(日) 10時~16時 場 所: 鎌倉市中央図書館

申込み不要・無料で、どなたでも参加できます。皆さまのご来場お待ちしております。

詳細は、図書館のHP、広報かまくら11月号、鎌倉萌11・12月号をご参照ください。

湘南邸園文化祭(9月6日~12月20日)

湘南邸園文化祭は、今年20周年を迎え、全8回の特別講演と街歩き企画を実施しています。他にも例年同様の各種イベントも開催。詳しくは、湘南邸園文化祭のHPをご参照ください。

<http://shonan-teien-festival.org/>

☆図書館友の会全国連絡会

本年3月、136自治体を対象に行った「自治体における図書館条例・図書館規則等に関する調査」の報告書が完成しました。今後、協力して下さった自治体に報告するとともに広く公表していく予定です。

お問い合わせは、阿曾(TEL/FAX: 0467-45-5731)まで。



編集後記 * * * * *

☆ようやく涼しくなりほっとしています。読書の秋を楽しみたいと思います。(A.S)

☆湘南邸園文化祭が始まりました。鎌倉に限らず、湘南地域で見学会や講演会、催し物盛り沢山です。HPを参考に、ぜひお出かけください。(M.S)

題字・巻末カット: 小島寅雄

2025年9月24日発行

図書館とともだち・鎌倉(代表: 水岡やす子) 編集: 阿曾・黒瀬・杉崎・斉木

事務局: 〒248-0005 鎌倉市雪ノ下1-14-34(黒瀬) TEL/FAX 0467-22-8545

HP: <https://totomo.sakura.ne.jp> E-mail: toshokantomodachi@gmail.com

